

サンコール株式会社

～ 平成29年3月期 決算報告 ～

ご注意

本日の説明および配布資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。

平成29年6月8日

代表取締役社長 山主千尋

サンコール株式会社 決算報告

1. 決算報告

- ① 平成29年3月期 決算要約
- ② 平成30年3月期 業績見通し

2. 中期経営方針

添付：会社概要

サンコール株式会社 決算報告

1. 決算報告

- ① 平成29年3月期 決算要約
- ② 平成30年3月期 業績見通し

2. 中期経営方針

添付：会社概要

1-① 平成29年3月期 決算要約/連結

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期		
	実績	実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	36,730	37,980	+1,250	+3.4%
営業利益	2,113	2,250	+137	+6.5%
経常利益	1,522	1,734	+212	+13.9%
当期純利益	1,042	1,093	+51	+4.9%

一株当たり利益	32.87円	34.45円	+1.58円	---
平均為替レート 円/USD	120.15円	108.39円	△11.76円	---
円/EURO	132.58円	118.79円	△13.79円	---

- ・ 売上/営業利益 : 自動車関連販売増、HDD用サスペンション新モデル販売増、プリンター関連部品販売不振 など
- ・ 経常利益 : 円高進行、海外子会社の現地通貨安により為替差損計上、持分法投資損失の減少 など

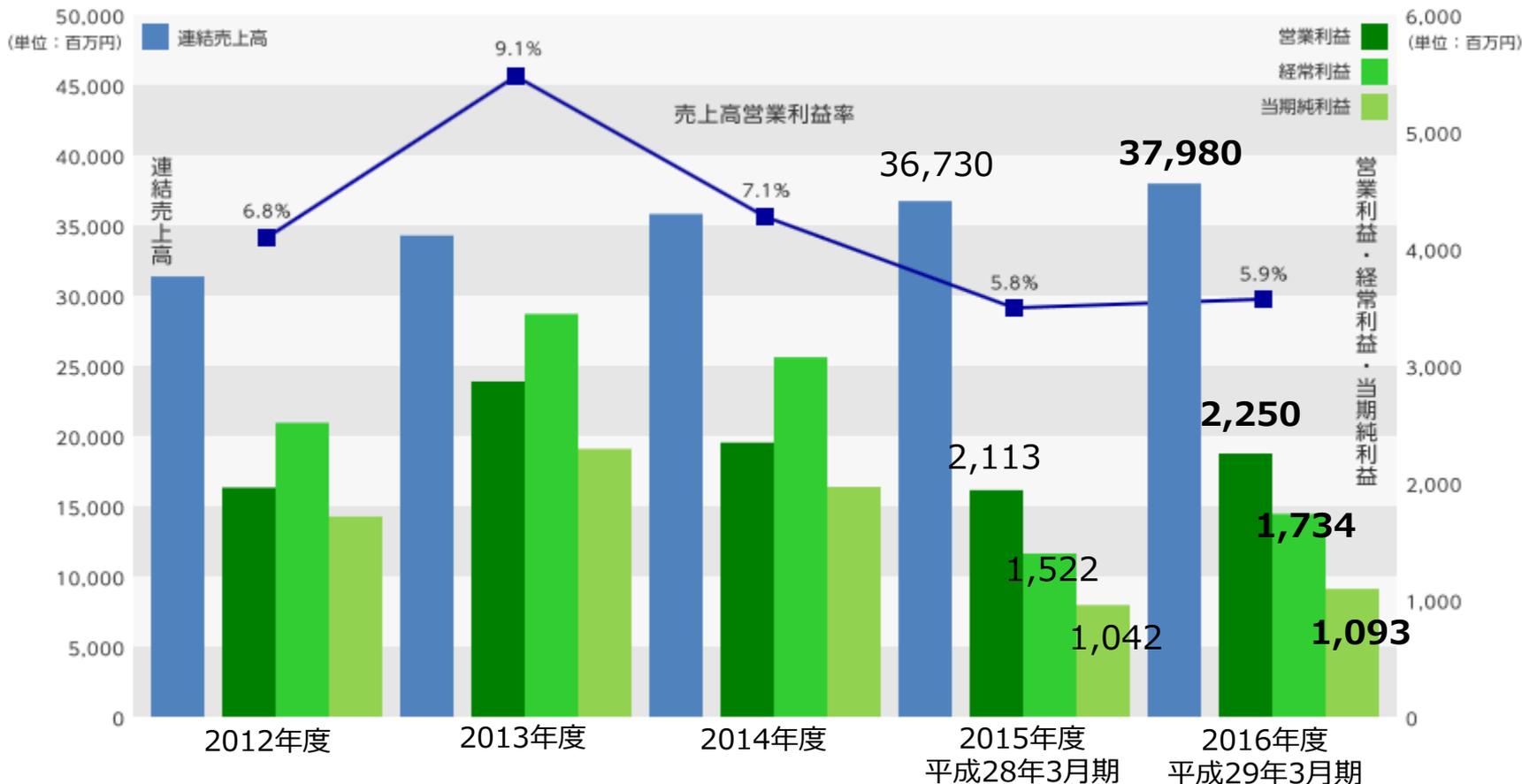
1-① 平成29年3月期 決算要約/連結 営業外損益

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期	
	実績	実績	前年同期比 増減額
受取配当金	1 2 7	1 1 9	△ 8
その他	2 3 3	1 9 8	△ 3 5
営業外収益合計	3 6 0	3 1 7	△ 4 3
持分法投資損失	▲ 4 6 4	▲ 1 2 3	+ 3 4 1
為替差損	▲ 4 2 8	▲ 6 2 8	△ 2 0 0
その他	▲ 5 8	▲ 8 0	△ 2 2
営業外費用合計	▲ 9 5 1	▲ 8 3 2	+ 1 1 9
営業外損益合計	▲ 5 9 1	▲ 5 1 5	+ 7 6

- ・ 持分法投資損益：中国合弁企業業績回復、メキシコ合弁企業の持分法適用化
- ・ 為替差損：単体の外貨債権評価損、メキシコ子会社債務の評価損
(期首ペソ17.21/ドル→期末ペソ20.66/ドル) など

1-① 平成29年3月期 決算要約/連結業績推移

連結 売上高 / 営業利益 / 経常利益 / 当期純利益 / 売上高営業利益率 推移

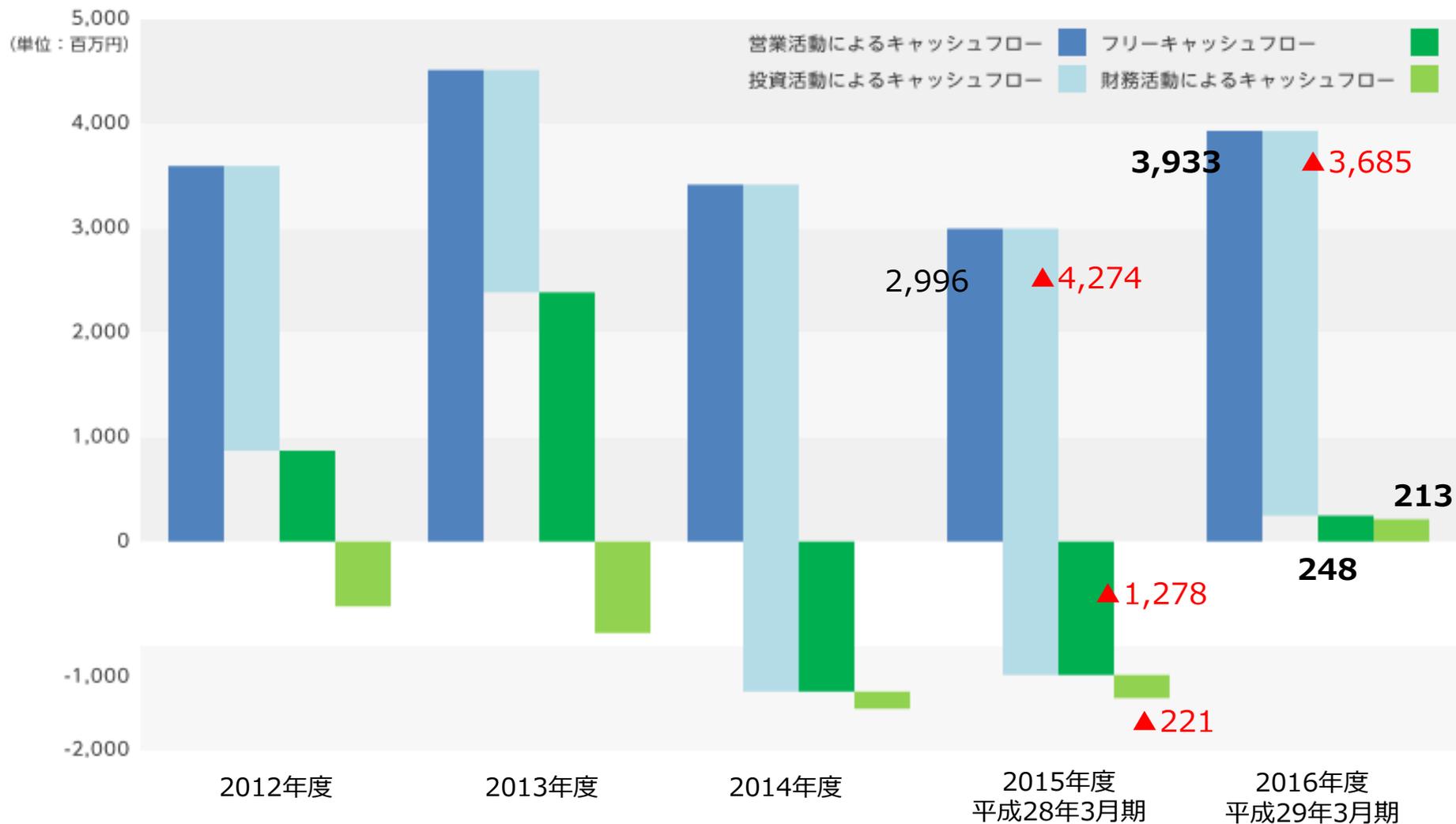


- ・ 売上 : 自動車関連販売増、HDD用サスペンション新モデル販売増がプリンター関連部品の販売不振を吸収し、過去最高売上を達成
- ・ 営業利益 : 自動車関連部品、HDD用サスペンション増収効果、アジア子会社の原価改善等前期比6.5%増

1 - ① 平成29年3月期 決算要約/連結 財政状態

(単位:百万円)	平成28年3月末	平成29年3月末	増減
資産合計	43,048	45,296	2,248
現預金	7,616	7,865	249
売上債権	7,492	8,470	978
棚卸資産	4,935	4,956	21
その他流動資産	901	1,106	205
固定資産	22,101	22,895	794
負債合計	9,975	12,422	2,447
流動負債	7,749	9,158	1,409
固定負債	2,225	3,263	1,038
(有利子負債)	551	1,580	1,029
純資産合計	33,073	32,874	△199

1-① 平成29年3月期 決算要約/連結 キャッシュフロー状況



サンコール株式会社 決算報告

1. 決算報告

- ① 平成29年3月期 決算要約
- ② 平成30年3月期 業績見通し

2. 中期経営方針

添付：会社概要

1-② 平成30年3月期 業績見通し/連結

【事業環境】

平成29年3月期

平成30年3月期見通し

- 為替レート : ドル = 108.39円 → 108.00円
 ユーロ = 118.79円 → 116.00円

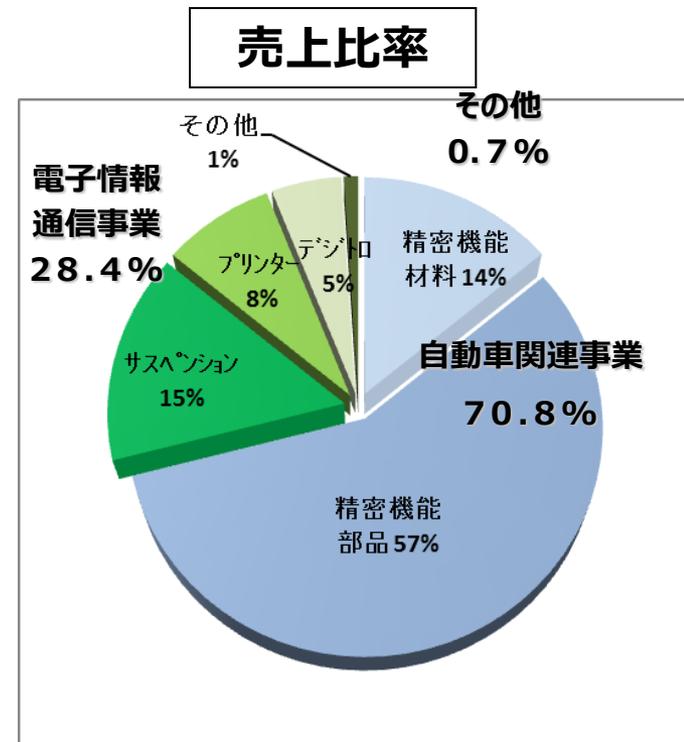
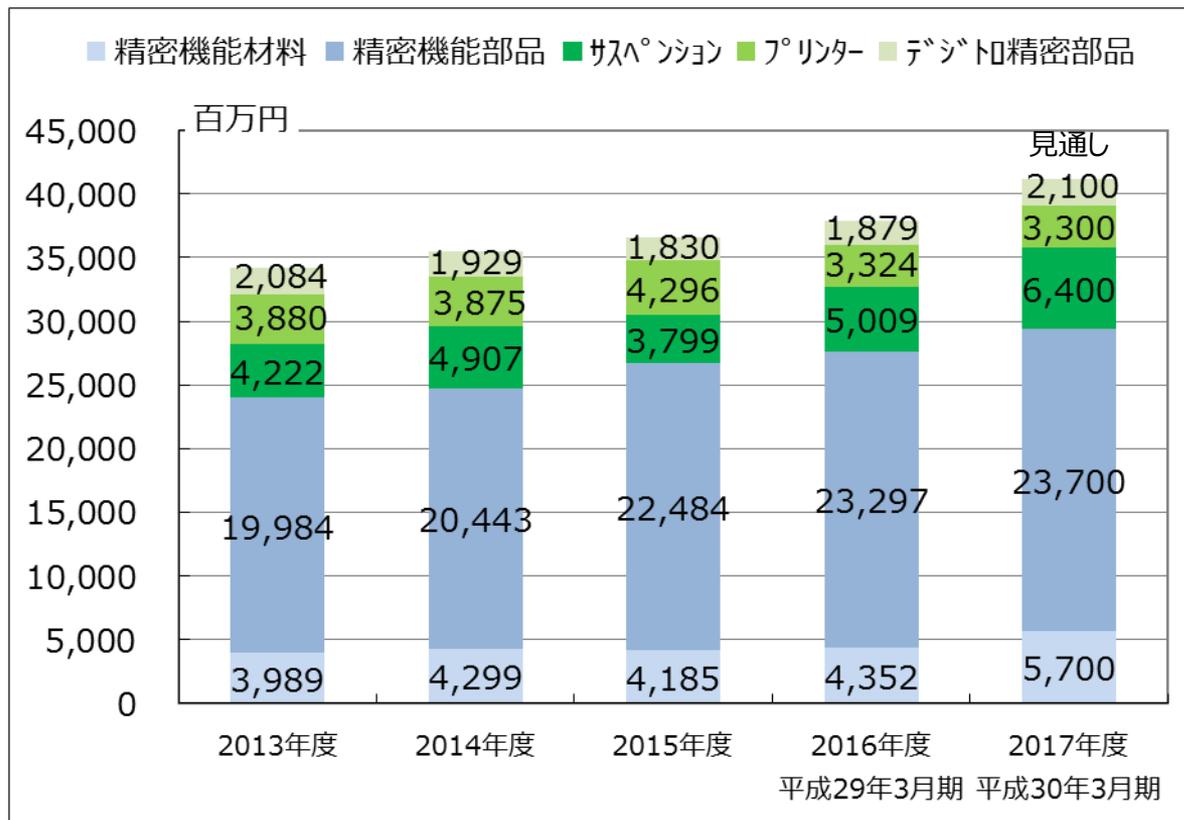
- 需要動向

- ・自動車関連事業 : 中国など海外需要が堅調、メキシコ子会社の本格的量産開始
- ・HDD用サスペンション : 新モデルの需要増加
- ・光通信関連 : 米/ダラスでの販売拠点開設による販売促進

【通期見通し】

(単位：百万円)	平成29年3月期	平成30年3月期		
	実績	見通し	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	37,980	41,500	+3,520	+9.3%
営業利益	2,250	2,700	+450	+20.0%
経常利益	1,734	2,600	+866	+49.9%
当期純利益	1,093	2,000	+907	+82.9%

1-② 平成30年3月期 業績見通し 製品別連結売上高推移・比率



ー H29/3期

- 自動車関連事業 : 海外エンジン・ミッション用部品の伸長により増収。
- 電子情報通信事業 : HDD用サスペンション新モデル需要増、光通信部品の販売持ち直し、プリンター関連部品販売低迷。

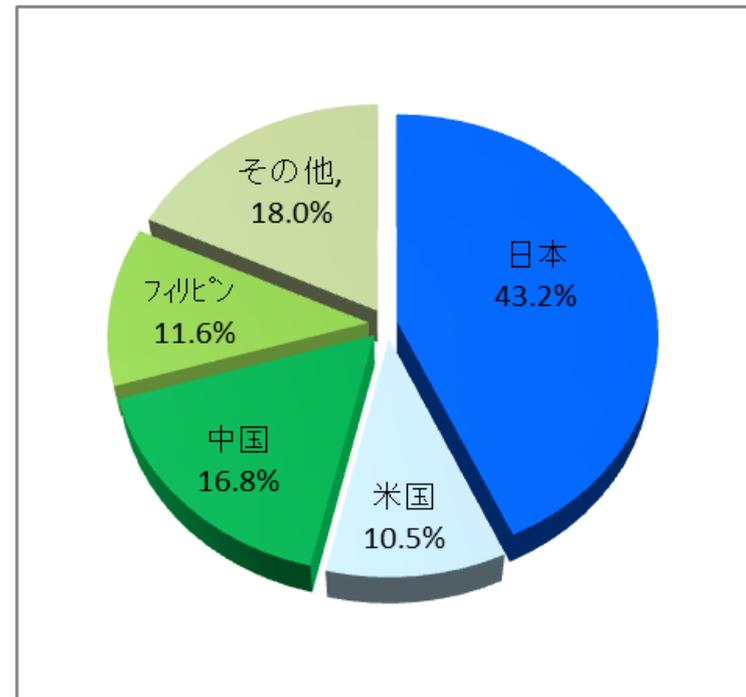
ー H30/3期 見通し

- 自動車関連事業 : アジアでの自動車部品需要増、中国、メキシコ材料生産増。
- 電子情報通信事業 : HDD用サスペンション需要増。

1-② 平成30年3月期 連結決算 地域別連結売上高推移・比率



地域別売上比率



ー H29/3期

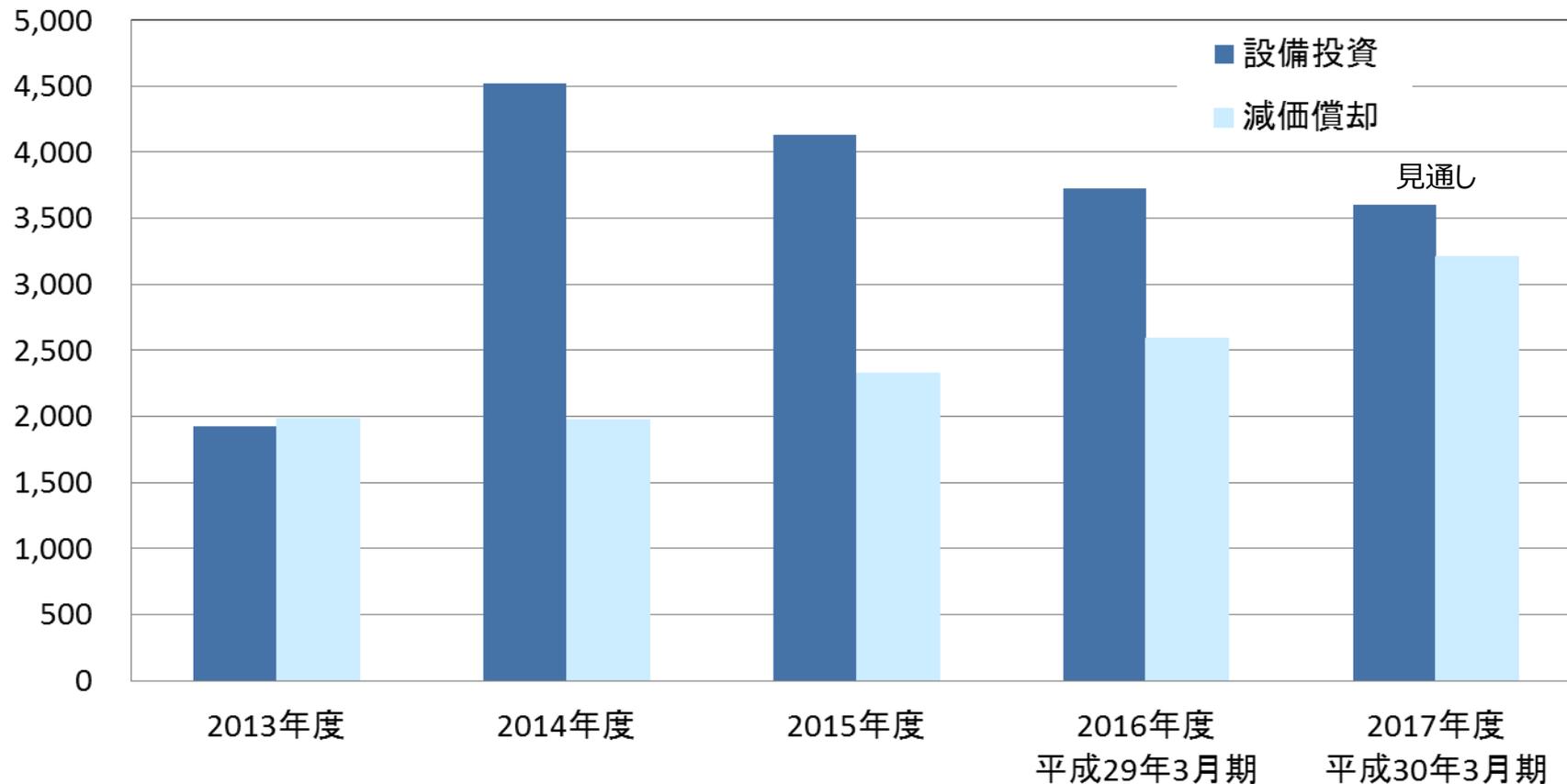
- ・ 日本 : 自動車ミッション用ばね製品の販売増。
- ・ 中国/アジア : 弁ばね材料、自動車部品、HDD用サスペンション売上増。

ー H30/3期 見通し

- ・ 中国 : 自動車部品の需要堅調、HDDサスペンション需要増。
- ・ フィリピン : HDDサスペンション需要増。

1-② 平成30年3月期 連結決算 設備投資・減価償却推移

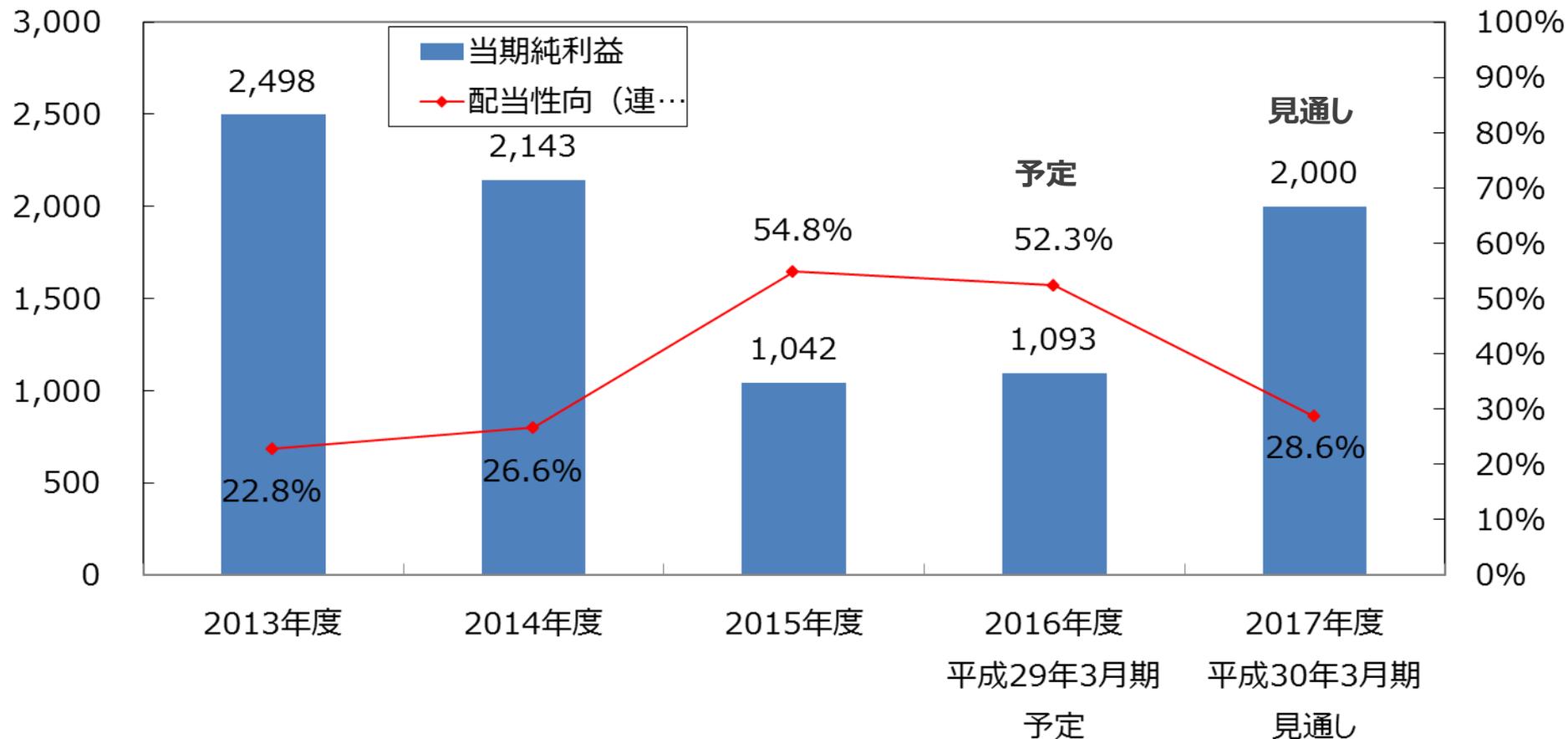
単位：百万円



百万円	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 平成29年3月期	2017年度 平成30年3月期 見通し
設備投資	1,923	4,519	4,133	3,727	3,600
減価償却	1,981	1,969	2,326	2,592	3,213

1-② 平成29年3月期 配当方針

単位：百万円



配当政策： 現行配当額1株18円の維持を下限目標

－ 2017年度： 中間配当 8円 / 期末配当 10円
 (予定) 合計 18円 / 配当性向 28.6%

サンコール株式会社 決算報告

1. 決算報告

- ① 平成29年3月期 決算要約
- ② 平成30年3月期 業績見通し

2. 中期経営方針

添付：会社概要

2. 中期経営方針

－ 中期計画 ローリング －

中期経営方針：

『企業価値向上』を目指し、コア事業の経営資源の効率化と成長分野への投資による事業の拡大発展を進める。

－ 事業別方針と進捗状況

1) 自動車関連事業：既存事業の基盤強化と拡大

→ 精密機能材料の中国能力増、メキシコ量産開始により、予定供給能力を実現できる体制を確立。

2) 電子情報通信事業：経営資源の集中と開発力、営業力の強化

→ HDDサスペンションは主力製品の生産ラインを増設、光通信用部品は北米・中国市場への拡販体制構築

3) 新規事業：自動車電動化部品の開発、新素材の研究開発、 医療・環境事業への参入

→ 自動車電動化部品の量産開始、竹炭塗料の量産開始

2. 中期経営方針

— 概要 —

1) 自動車関連事業

方針：基盤強化・拡大

— 確実なシェア獲得による安定した業績の確保

精密機能材料 エンジン・ミッション系部品
 精密機能部品 安全部品

2) 電子情報通信事業

方針：経営資源集中

開発・営業力強化

— 特定製品、拡大市場への注力による収益向上

HDDサスペンション データセンタ向け部品
 デジトロ精密部品

3) 新規事業・製品

方針：成長分野への事業参入

— 高付加価値部品開発による業績拡大

電動化部品
 モーター / バッテリー
 関連部品

プリンター関連部品
 3Dプリンター部品

医療・介護

リハビリ歩行支援装置
 農作業支援装置

環境・エネルギー

ダイヤモンド砥粒電着ワイヤーソー
 竹炭塗料

2. 中期経営方針

— 自動車関連事業 —

基盤強化と拡大

事業環境

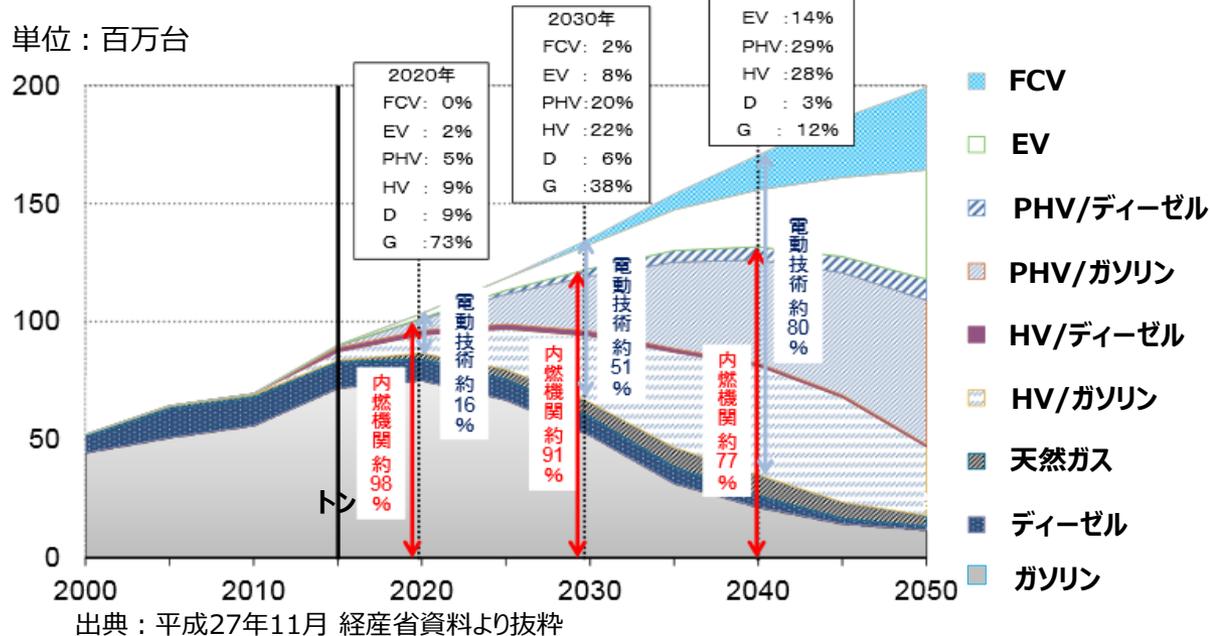
— 自動車市場（グローバル）の拡大

2016年乗用車販売台数： 84百万台
 2030年 “ 予測：134百万台
 (2016年乗用車生産台数： 72百万台)

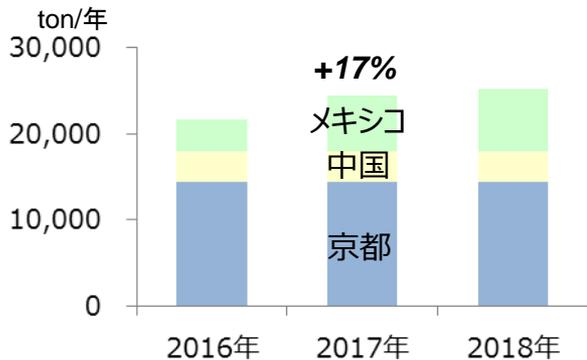
— 一次世代自動車の普及

2030年予想
 ・ 内燃機関 122百万台 91%
 ・ 電動技術 68百万台 51%
 (内：EV/FCV 12百万台 10%)

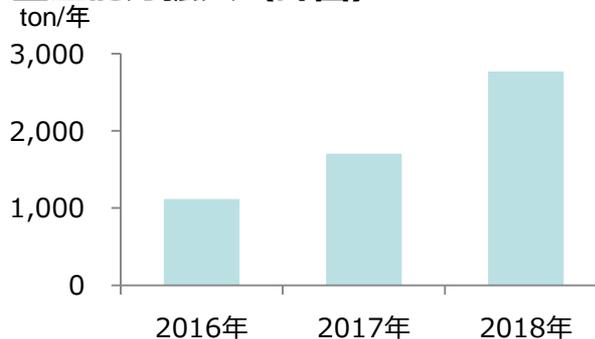
— 参考：自動車販売台数予測（乗用車）



1) エンジン弁ばね用線材生産能力拡大



2) 安全部品/シートベルトぜんまい材料生産能力拡大（計画）



3) 電動化部品

新製品開発
 -シャントオンバスバー
 -リアクターASSY

2. 中期経営方針

— 電子情報通信事業 —

経営資源の集中と開発力、営業力の強化 事業環境

① 主要グローバルICT市場の規模と成長性

データセンター 成長率 '15/'16年比 +8.4%
内) 北中南米 +8.4% / アジア +9.3%

単位：十億ドル

レイヤー	市場・品目	市場規模	成長率
プラットフォーム	データセンター	20	8%
	クラウドサービス	100	24%
ネットワーク	移動体通信インフラ	70	-12%
	固定通信インフラ	30	4%
デバイス・部材	デスクトップPC	70	-6%
	モバイルPC	200	-2%
	タブレット	70	-2%
	スマートフォン	800	-1%
	ウェアラブル (デバイス)	30	24%
	センサー	10	17%

参照情報：総務省資料からサンコール作成

② サーバー市場予測 '16-19年 平均+7%/年

単位：千台

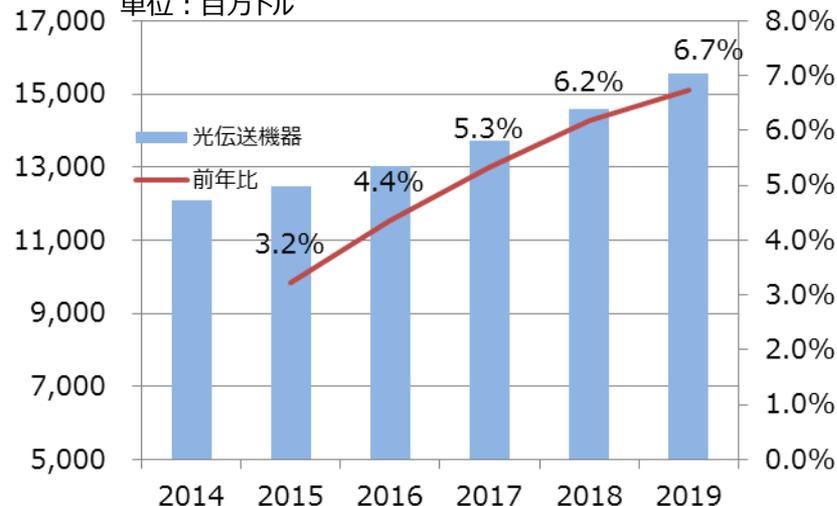


参照情報：総務省資料からサンコール作成

③ 光伝送機器市場の推移と予測

'16-19年 +4~7%/年

単位：百万ドル



参照情報：総務省資料からサンコール作成

— 拡大市場への集中

1) HDDサスペンション

データセンター大容量サーバー向け製品の生産集中

2) 光通信部品

成長市場 北米・中国への拡販強化

3) プリンター部品

成長市場 3Dプリンター部品の開発

2. 中期経営方針 — 新規事業・製品 —

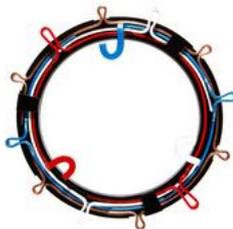
成長分野への事業参入

自動車関連事業

電動化部品 EV/HV/PHV/FCV



シャント・オン・バスバー
(大電流センサー)
KOA社共同開発



バスリング



リアクター
ASSY

電子情報通信



3D プリンター部品

医療・介護



装着型運動支援装置



リハビリロボット
『オルソロボット』



農業支援装置

環境・エネルギー



炭素材開発
量産化装置、
炭素材利用製品



タッチパネル



固定砥粒ワイヤ
グイメント・ワイヤ

2. 中期経営方針

— 新規事業・製品 —

成長分野への参入：自動車電動化部品 / シャント on バスバー

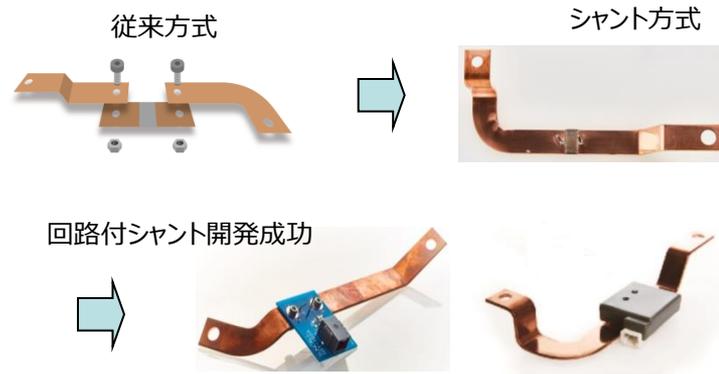
バスバー一体型の電流センサー。
低電流から大電流まで高精度に検出します。

【取組内容】

- ・シャントバスバーから 回路付まで完成
- ・遂に量産化が決定



KOA株式会社との共同開発

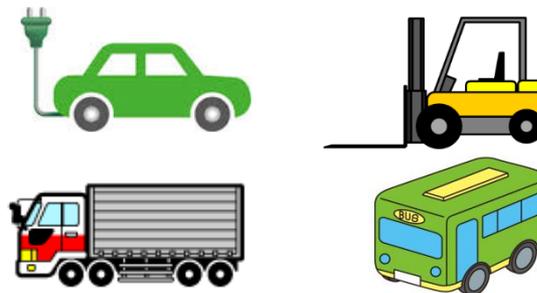


【今後の取組み】

- ・H E V車・E V車・産業機器関連、バスにも展開

【製品用途】

- ・車載・産業機器・エネルギー分野における電流検出
- ・バッテリーマネージメントシステム（BMS）
- ・高周波対応が要求されるインバータの電流制御

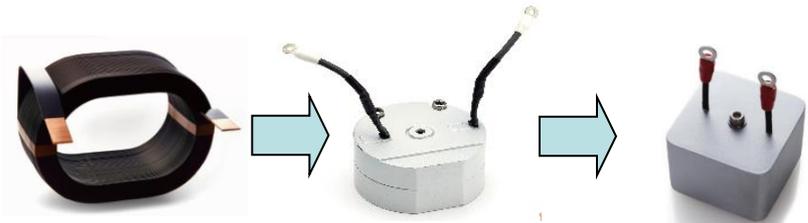


2. 中期経営方針

— 新規事業・製品 —

成長分野への参入 : 自動車電動化部品 / リアクター

リアクトルコイルからリアクターまで



【取組内容】

- ・量産のリアクトルコイルから、リアクター A S S Y へ
- ・今度はさらにコンパクト化へ
- ・量産化に向け、内製化取組み中

さらにコンパクト化したスクエアタイプ

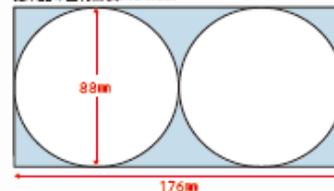
当社従来品とその占有面積を比較すると、約25%省スペースになります。

当社従来品との占有面積比較(2個設置した場合)

従来品の占有面積: 154.8cm²



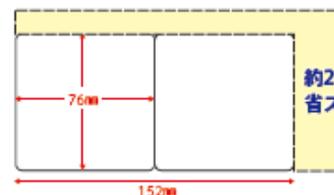
従来品



スクエアタイプの占有面積: 115.5cm²



スクエアタイプ



約25%
省スペース

【製品用途】

- ・EV車、HEV車・FCV車用の昇圧用コイル
- ・モーターのステータコイル

【今後の取組み】

- ・完成車メーカー、インバーターメーカーに拡販中

2. 中期経営方針

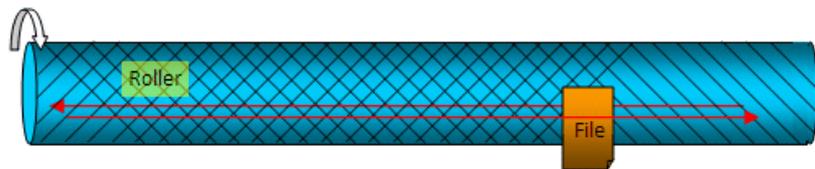
— 新規事業・製品 —

成長分野への参入：電子情報通信部品 / 3Dプリンタ用ローラー

次の時代を見据えた新ローラー開発



Direction Rotation

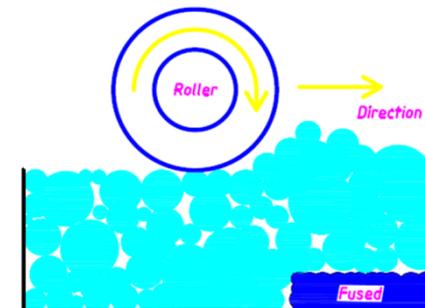
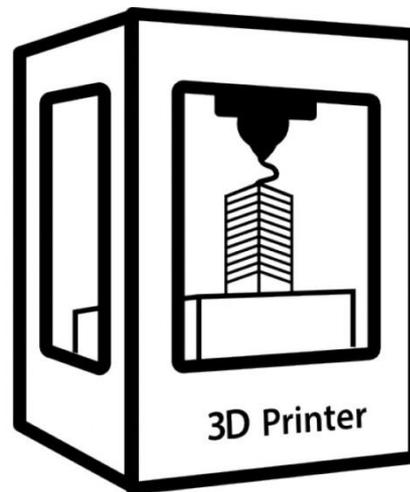


【製品用途】

- ・メーリア(粉末)を均一に押さえつけるためのローラー
- ・平滑化効果も兼備えたローラー

【取組内容】

- ・高速3Dプリンター要望に応えられる様開発Start



- ・ローラーで樹脂粉末を平滑化する
- ・樹脂を硬化させる

【今後の取組み】

- ・新規採用に向け、量産化を視野に入れ開発を進める

2. 中期経営方針

— 新規事業・製品 —

成長分野への参入：環境・エネルギー / 炭素材開発 竹炭

京都の会社が京都の竹を利用した
京都ブランド。



【製品用途】

- ・ゴム用フィルター
- ・脱臭製品
- ・吸放湿製品
- ・塗料・インキの顔料
- ・将来的にキャパシタ

【取組内容】

- ・量産化決定
- ・タッチパネルに初採用

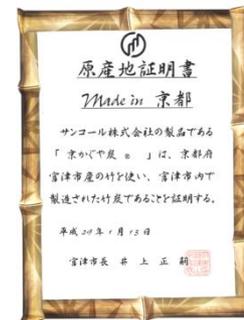


(株)セイコーアドバンス社出展

・商標・原産地証明取得

京かく"や炭® (一般生活用品用)

京BAMBLACK® (工業製品用)



【今後の取組み】

- ・高絶縁性、漆黒性、粉碎径 3 μの技術を武器に洗濯機・カーナビ・スマホ用タッチパネルにも拡販
- ・車関連含め、他業種への展開を進める



2. 中期経営方針

— 新規事業・製品 —

成長分野への参入 : 医療・介護 / 装着型リハビリロボット

当社の医療・介護機器事業への第一歩。
装着型運動支援装置



2018年度上市予定 製販ライセンス取得済

【開発品用途】

TKA（全人工膝関節置換）術後の歩行機能の矯正

障害の垣根を超える技術の開発。
リハビリロボット『**オルソボット**』（商標獲得）



【開発品用途】

脳卒中後の歩行リハビリ補助

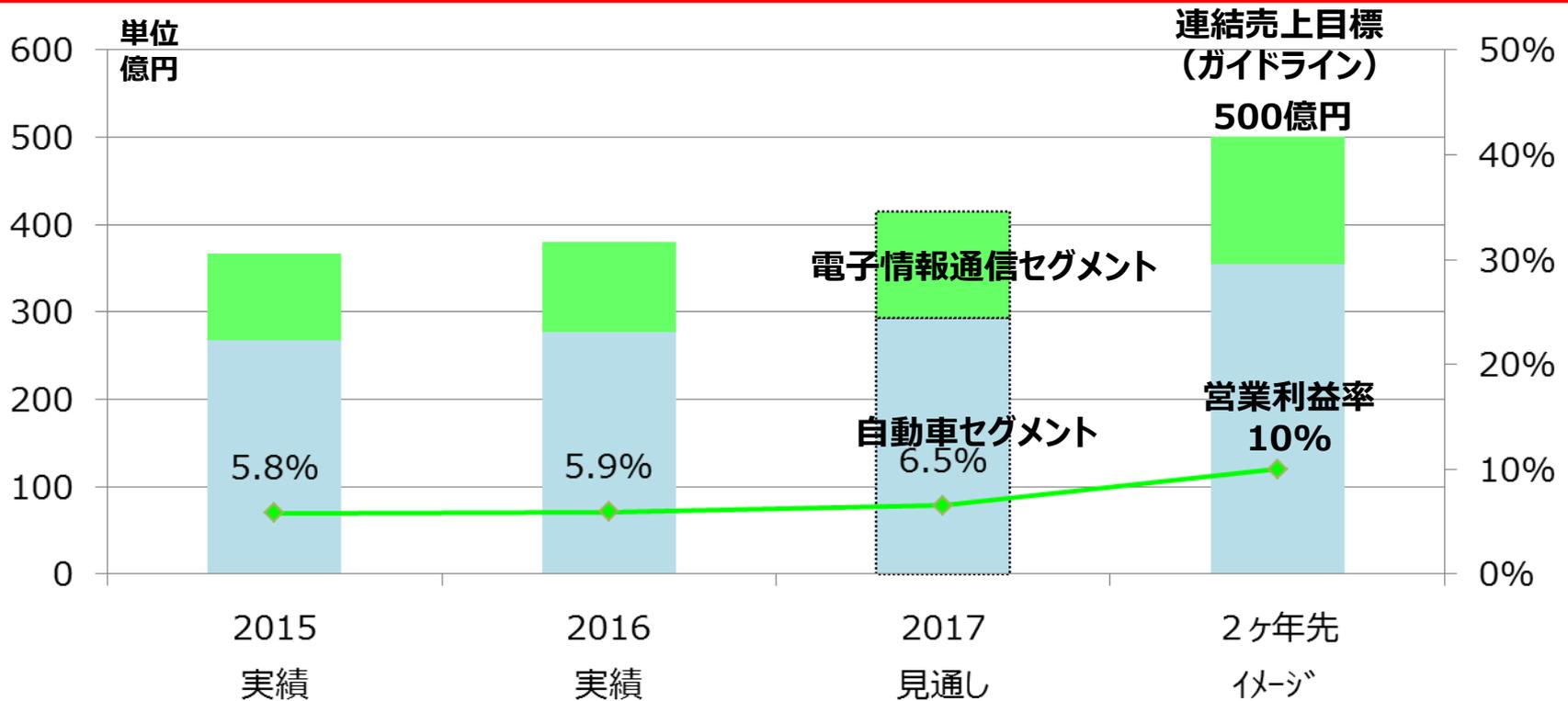
※当開発品は当社が参加する京都大学COI(Center Of Innovation) 拠点グループ2で共同開発を行っています。

【新規取組】

・**農業支援装置にも応用を検討**



2. 中期経営方針 定量イメージ



- **定量イメージ** : **連結売上500億円 / 営業利益率 10%**
投資金額 2ヶ年累計 70億円

- **配当金 (中期計画期間/2018年までの目標)** :
株主帰属当期純利益に対する配当性向
25億円までの部分 25%
25億円を超える部分 35%
現行配当額1株18円の維持を下限目標とする

Fine Precision, Nano Solution

